

平成24年度 第3回社会教育委員会議 会議録

平成25年3月22日（金）13時30分 庄内町役場立川庁舎大会議室に社会教育委員を招集し、社会教育委員会議を開催。

1. 出席した委員は次のとおり

富樫良秋、齋藤良一、菱谷光男、椎名和美、佐藤富美、佐藤啓子、石井玲子、井本美和子、志田征子、田澤啓二、志田啓子、今野美恵子、秋葉俊一

2. 欠席した委員は次のとおり。

廣田幸記

3. 出席した職員は次のとおり

社会教育課長本間俊一、課長補佐阿部勉、主査兼社会教育係長佐々木弘喜

4. 会議の次第は次のとおり。

- 1 開会
- 2 諮問
- 3 あいさつ
- 3 議事録署名委員の指名
- 4 協議
- 5 その他
- 6 閉会

5. 協議事項は次のとおり

- (1) 平成25年度 庄内町の社会教育の基本方針と重点施策（案）について
- (2) 庄内町青少年育成プログラムの見直しについて
- (3) その他

6. 会議の内容は次のとおり。

13時30分開会

社会教育課長 開会

諮問を教育長からお願いします。

教育長 社会教育法第17条第1項第2号の規定に基づき、「庄内町青少年育成プログラム」の見直しについて、貴社会教育委員会議に諮問します。

社会教育課長 富樫議長よりあいさつをお願いします。

富樫議長 皆さん今日は。年度末の天気の良いところをお集まりいただきありがとうございます。今期の最後の会議になりました。庄内町社会教育の振興にご指導ご助言をいただきありがとうございます。今年度は社会教育の県の大大会、東北大会と勉強をさせていただきました。実のあるところを出していただき、最後の会を閉めたいと思いますので充分にご意見を出していただきたいと思います。

社会教育課長 教育長よりあいさつをお願いします。

教育長 教職員の人事が発令されましたし、今日、職員の内示もありました。教育委員会の職員も替わるが、来年度に向けて準備をしているところです。卒業式や卒園式に出ていただいたと思いますが如何だったでしょうか。子ども達も一生懸命生きようとしている。自分の考え方を持たせる教育を大事にしてやっている。人のためになにかをやらうとする子ども達が出て来て、色々な活動が行われている。6年前のアンケートを比べると、自尊感情が弱かったが、高くなってきている。子供達も自分の良さを見直し始めてきているし、地域の方に認められ始めてきているという、手応えを感じているところです。卒業式にもそんな面が出ていまして、変わってきたと感じている。学校教育と社会教育が力を合わせてきた総体でありますので、皆様方のお力添えに感謝を申し上げます。青少年の育成プログラムについては大事な課題でありますのでよろしくご検討をお願いします。

社会教育課長 議事録署名委員について議長からお願いします。

富樫議長 議事録署名委員については、佐藤富美委員と佐藤啓子委員をお願いします。

社会教育課長 協議の進行につきましては、議長からお願いします。

富樫議長 協議に入りますが、平成25年度庄内町社会教育の基本方針と重点施策（案）について、説明をお願いします。

教育長 （平成25年度庄内町教育委員会重点と視座について説明）

課長補佐 （平成25年度庄内町社会教育の基本方針と重点施策（案）について、説明）

富樫議長 説明をいただきましたが、質問、ご意見がありましたらお願いします。最初に、歴史民俗資料館の開館を平成24年度7月、8月の2か月にしていたが、どうだったでしょうか。

社会教育課長 実績としては、2か月で209人でしたが、その後に山形市の福祉団体や立川小学校の利用があり約270人になっている。資料館運営協議会に開館期間について意見を求めているので、2か月間が適当なのか検討していきたい。

富樫議長 分かりました。それから八幡スポーツ公園のオープンは決まりましたか。

社会教育課長 工事が5月末までの予定であり、完成検査もあり、オープン記念行事を6月30日に予定している。その前に、自由に見られる内覧会等も計画している。

富樫議長 町民が利用しやすい管理体制とは、どうですか。

社会教育課長 体育館等も含め4人の管理人体制で行いますが、運営についても初めてでありますので、関係団体と協議をしながらよりよい運営の仕方を検討していきます。

富樫議長 他にございますか。

委員 子供達に、子育てのなかで読書指導や読み聞かせ等と言われているが、総合計画でも検討されている図書館の建設について、入りやすく明るい、靴のままに入れる図書館はいつ頃にできるのか。亀ノ尾の里資料館の資料保管場所について、十六合公民館に押し込めて置くのではなく、大事な物ですので保管施設を建設されてはどうか。また歴史公園整備検討会とあるが、委員会を立ち上げてやっているのかお聞きしたい。

社会教育課長 図書館の建設については、大規模事業の計画には入っているが、年次計画がまだ示されていない状況である。合併特例債の延長もあり、事業を見直し今後進められることになる。資料館の新たな資料収蔵施設については、大規模事業の予算もありむずかしい課題であると思っている。資料館運営協議会の意見を聞きながら、町内の使用していない施設にまとめて整理するなどの方法を含め、検討の必要があると考えている。歴史公園整備検討会については、以前に教育委員会ですらまとめた清川歴史公園基本構想と併せ、観光の視点からも町として整備の考え方を整理する必要があると考えている。

富樫議長 よろしいでしょうか。他にございますか。先ほど説明のあった重点と視座のなかで、音楽に集う仲間づくりと、健康づくり全体構想について説明をお願いします。

教育長 本町では、音楽が盛んであり発表会もやってきている。大事にしていきたいと考え組み入れた。生徒が少ないことから立川中に文化部が無く、合唱祭には人を募って臨時的に出場している。小学校のスクールバンドはレベルが高く、これを活かしながら盛り上げて行きたいと考えている。健康づくりの全体構想については、トレーニングルームを健康相談のできる施設にとの要望もあることから、医療も含め、体協、スポ少、スポーツクラブ等がどんな関係で、どんな絡みで健康づくりを推進しているのか、全体が見えるような構図にしたらと考えた。

富樫議長 全体構想を作り、効果的に進めて行こうとする考えですね。他にございますか。それでは、この方針で進めていきたいと思います。続いて青少年育成プログラムの見直しについて説明願います。

課長補佐 (青少年育成プログラムの見直しについて説明)

富樫議長 前回9月の話し合いを盛り込んで素案が出来ているようですが、質問意見を伺いたいと思います。

委員 公民館ではボランティア活動等を写真で紹介しているが、庄内町で青少年を集める行事的なものはあるのか。例えば夏宵まつりは社会教育でやっているわけではないし、社会教育として青少年を動かす取り組みは何があり

ますか。どちらかという公民館にお任せになっているのでは。

社会教育課長 小学生国内交流事業を行ってはいるが、実際には公民館で家庭教育事業、青少年育成事業を実施しており、その活動の中で具現化するという考え方になる。

委員 青少年育成プログラムはあっても、人が集まってこないと發揮できない。大きなものとしては、公民館の指針となるプログラムになるのか。

社会教育課長 活動は少ないが森森自然塾、ボランティアについても今までは公民館で募集して各公民館で自己完結していたが、社会教育課で取りまとめすることで公民館事業以外にもボランティアの芽を活かしてやりたいと思っている。

委員 6月に高齢者の集いとなる福祉祭りがあるわけですが、演芸にプロの方が来ているが、小学校や中学校の発表の方が良いのではと思っている。福祉祭りは全町民を対象にしているし、高齢者の集いは75才以上が対象となるが、土日に掛けて3回やっていますので、別々の学校、出演者でやってはと提案している。年配の方が同じような演芸で飽きて来ていると聞いているし、幼稚園から中学校までの方が家族の方も来るでしょうし、町中から集まる良い機会と思っている。

富樫議長 6月の下旬まで学校で準備して、出演するには大変だと思います。

委員 出演するので練習しなければならないけど、子供たちですから、踊りなんか間違えてもいいんじゃないですかと言っている。

委員 すごく良いと思うが、会場の人数は各地区ごとに制限があり、幼稚園の子供達が遊戯をしても家族の皆さんが来るでしょうし、実現したとしても大変だと思う。

委員 高齢者の席は決まっているので、ホワイエで映像を見るとか、二階席の後ろに立ったりすればいいのでは。

委員 学校とか幼稚園の当番制にして、今回はこの地区が出るとかしたら良いかもしれない。

委員 当番制でなくても、3回行っただけですので別々の学校が出て良いのではと思う。来年はまた替えてやるとか。

委員 実際、踊りは何年間も続いたので、飽きたという声は聞いている。庄内町の青少年が一堂に会して何かをするということはほとんど無く、地区にまかされている。第一ではメダカや米づくり、第四ではザッコしめ等、地区公民館、学校で共催され、一堂に会することは無いですね。

委員 ありませんね。連合学芸会みたいなのがあってもいいですね。

教育長 学芸会をやっている市町は庄内には無いですね。音楽は、鶴岡は5年生が合唱と合奏をやっている。庄内町には無い。中学校は、余目中だけですので、田川と一緒に音楽祭に参加しようとし始めており、広域的にやらなけ

ればならないものもあるだろうと考えている。響ホールもあるので、余目中は使っているが、小学校にも使ってほしい。ステージの場に立たせると子供たちが自信を持ってくると勧めている。

委員 合唱でステージを使っても、人数が少なくいっぱいにならない。去年と今年は11月の合唱祭に参加した。

教育長 学校から出してくれと言われると、学校の方でも構え、練習をしなければならなくなる。おかしなものは出せないし、比べられることもあり間違えてもいいと言われるが頑張る。そういう教育活動を組もうと学校の理解があれば可能性はあると思う。また保健課と社会福祉協議会だけでやっていて、教育委員会や学校に話は届いていない。

委員 選択肢のひとつとしてあるのであれば学校でも取り組めるが、輪番になると大変だし、少し違ってくる。

委員 新春の集いに子供達の発表があり、大変好評である。

教育長 新春の集いは総務課でやっているが、ボランティア等子供達が色々な活動を行っており、町民への発表の場として意味付けをしてやっている。

委員 青少年を取り巻く課題で、地域の一員としてボランティアがありますが、サッカー場も出来て年一回でも地区でクリーンディとして取り組んで子供達が率先して行うよう企画しては如何でしょうか。なんでも管理人でなく、自分たちの使う場所だからきれいに使うようにしては。

委員 北月山のスノーフィスティバルだが、あまり人がいなかった。ボランティアで灯籠を作って一生懸命やり、町民に広報しているが人が集まらずもったいないと思っている。二日間の規模であれだけ労力を使って、雪の上を滑ったり雪像を作ったりしているが子供達が少ない。

委員 立谷沢流域が主催で、行政区長等に呼びかけてボランティアでやっている。国土交通省からも、大きなかまくらやスラローム型の滑り台を重機で作ることに協力をいただいている。

教育長 実行委員会でやっているようだが、教育委員会への要請もない。余目からは距離があり大変だが、立谷沢には自然の文化がある。里山も入れて色々やってみたい。森森の校舎はいいが、水があまり使えないし排水の整備にお金がかかる。

社会教育課長 合併浄化槽の規模が小さく、風呂やシャワーを整備するのに多額の経費がかかるし、垂れ流しをすれば名水百選に傷がつくことになり、課題になっている

教育長 北月山荘まで歩いて風呂に入らせたりしている。山や自然を活用するように織り込んでいただきたい。

委員 冬には雪を活用してやっていかなければならないが、夏はキャンプで満杯

であるし、北月山荘まで歩くと2キロぐらいあるが、途中にある南部山村広場の川で魚をつかまえたりして子供達は喜んでいる。あいさつも良く楽しんでやっている。

委員 家庭の課題か学校の課題か分からないが、民泊を引き受けて、春は中学生、秋は高校生と年2回やっているが、礼儀も悪く、布団の敷方、食卓の並べ方等の家庭の中ですることが分かって無くてびっくりする。恥をかかないように教育してほしい。

教育長 議会で、家庭教育をどう指導しているのかいつも質問を受けるが、子供は教育出来るが、家庭までは難しいと答えており課題である。

委員 幼稚園や保育園では自分で箸を持って食べられる人が半分もいないらしい。躰の問題は、家庭教育だと思う。

教育長 教育の原点は家庭だとしてどう取り組んで行くかだが、PTA研修をやっている。食べることは、給食になり家庭から離れてしまうので、旧余目では幼稚園では弁当を食べさせる考えがあった。

委員 ご飯は皆なで一緒に食べるものだと言われてきたが、今の子供は勝手に食べている。親とも、祖父母とも食わず、教えることもできない。口で言っても簡単に聞いてくれない。

委員 青少年育成については範囲が広くて難しい課題が多いが、実行するにあたって各公民館への説明はどのようにしてやっているのか。

課長補佐 機関の長や係長会議がありますので説明をしていきますし、その会議の中で協議をして課題解決を図っていききたい。

委員 話し合いの中で、効果はどのように考えているか。

社会教育課長 公民館事業の評価になると思うが、事業を組んで実施して自分で評価して教育委員会に報告するレベルです。教育委員は2年に1回各施設を訪問して話し合いをしている。評価を地域住民と一緒にやる機会は非常に限られているが、公民館は地域の人と一緒に作っていくという考え方をしている。

委員 是非強力にお願いしたい。

富樫議長 プログラムについて他にありませんか。

委員 各地区に民俗芸能があるが、祭りの時しかやらないこともあり見る機会もないが、小学生が入っているところもあるし、引き継ぐ人もいないという話も聞いているし、どんなテコ入れがされているのか。

課長補佐 活動している団体が30近くあるが、若い人が少なく活動を休止している団体も4つほどある。公民館で関わりを持つものもあるが、主に集落で引き継がれている。

委員 そういうことで、大きな何らかの形で発表会があったり、専門にやったりするのか。

- 委員 皆さんから発表を喜んでもらえるが、少子高齢化でメンバーが揃わない。行事についてはほとんど神事のものであり、練習するにも難しい。予算的にも集落の輪が堅い。子供がいなかったら他部落からとはいかない。地域の住民性を重視するがなかなか進展しないもの話し合いをした。
- 委員 若い人は勤めており、同じ時間帯で練習が出来ない。祭りの時は前から準備ができるのでやっとなでできる。タイミングが大変だし、お金も掛かる。鶴岡市の安丹では、22戸でずっと伝統を守っているが、若い人も少なくなり、年配の人もしなければならぬという。
- 委員 村山市の徳内まつりは2ヶ月ぐらい前になると、各地区の若い人が熱く練習を仕始める。目標に向かって取り組んでおり、青少年教育の一環として扱えると思う。発表の場を持って来るとついてくるし、お金をかけなければ廃れてくる。庄内に若い人が、熱くなるお祭りはあまり無い。
- 教育長 鶴岡は天神まつりに学校の希望で出ている。やってみると子供はすごく育つ。学校で練習し、夜は親子が公民館等で練習し、沿道で20回くらい踊る。踊りが上手だったと褒められると、地域の子供になってくる。どうやって子供を育てるか。地域のひとつの文化であり教育としてどう使うか。結果的に地域と歩む学校にもなる。余目まつりの相撲大会も苦勞している。日曜日であれば良いのだが、平日の午後に団体戦だけ出るようになった。土俵に上がり、皆から見られると子供は変わっていく。粘り強く話し合いをして、5年ぐらいかけて全学校が出るようになった。
- 富樫議長 夏宵まつりも子供は5、6回、夜も練習して、法被をそろえる等、燃えることで思い出にもなる。
- 教育長 地域との一体感が、そういう体験が地域の愛着にもなっていく。踊りにはなんでもリズムがある。大綱では大黒舞を一人一芸として、子供たちが学校で習って発表している。神事だからとして、前は学校でやっていたが、今は学校で黒川能の一部をやっていて、黒川能を支えている。生涯学習が黒川能に仕込まれている。公民館でも伝統芸能を子供達に入れることができれば、青少年育成になるのでは。伝統芸能もプログラムに入れて検討を願いたい。
- 委員 跡集落にも祭りの舞いが11種あったが、大人が引き継ぐことが出来ず子供達にお願いしている。学校の年間行事にも「跡まつり」と載せて協力をいただいている。人数が少なくなって1年生から参加している。春休みや夜に練習するが、行儀も良くなって、作法も覚えてとても子供達には良いことだと思う。
- 教育長 そう言う仕掛けを作っていってもらいたい。
- 委員 学校の方から、校長先生や休みだと先生方いっぱい出て来て、4月25日

の12時半頃から舞いが始まるが、見学に来てくれる。学校行事の方にも載っていると見ている。大人が笛を吹いたり太鼓をたたいたりして、子供達が舞う感じでやっている。学校からも許可をいただき、早上がりさせてもらっている。

- 教育長 教育委員会でも地域に立脚した学校づくりをお願いしている。
- 委員 各地区の祭りのときは早上がりしている。子供たちが踊りを教えてもらっているのはうちの地区は西野しかない。他の地区にもあると思うが、指導を待っている。
- 教育長 公民館活動に組み入れてもらうのもいいが、地区が大きくなるので部落と考えるネックもある。
- 委員 指導者の都合で夜しか練習できない。礼儀作法から教えられて、親よりも先輩の言うことは聞く。
- 教育長 家庭だけで教育するのは難しいので、地域で子供を育てる考え方です。知恵を出して新しい公民館活動や地域活動を作って行きたい。
- 社会教育課長 清川では人口も少なくなっていることもあって、伝統芸能を公民館事業で取り入れている。学区となると地域が大きいので、特定の集落のものを学区公民館の事業としてできるかという難しい所がある。伝統芸能をこのまま何もしないで休止になるよりは、どうやっていけば良いのか。子供を加えて、子供の時から伝統芸能に親しむことが、大きくなっても興味を持つきっかけになるのではと思っている。民俗芸能連絡協議会の皆さんが抱えている大きな課題になっている。
- 教育長 伝統芸能の素材が繋がって、活動になれば生涯学習が作られていく。何か色々仕掛けてみる試みをお願いしたい。
- 委員 周りに合わせようとするとなかなかできないから、芸能発表会でやってみては。参加したい団体が段々増えていくような形の仕掛けを作っていくと、出てくる気がする。
- 教育長 今の考え方は、地区公でやるのはいいが、教育委員会等で芸能大会をやってひとつの柱を作っておく、地区公だけでやっていると活発化しないのではという考え方。
- 委員 芸術祭なんかあるわけですから、1か月近くも。発表の場もあるわけですから、まず目を向ける機会に出てもらえればと思う。なかなか合唱とか合奏の団体は多いですけど、ちょっとダブリがあって、1か月ぐらいある中で参加できるもので参加できれば、一緒に。11月末まで1か月近くあるものですから合唱祭までが、長すぎてプログラムも行く人もどれにしようかというところもあるし、ここでこれ、と確認してなると、観客も増えるし行く人も気持ちも新たに、今年新しいものが見られる。毎年同じだと、



いいかな今年はという半減しそうな気持ちも、新しいもの新しいものと目を向ける機会があればまた違ってくる。残念なのは、見に来てくれる人が少なくて、家族がいるから見に行くだけでなく、もっと目を向けさせる方向にするには、企画で毎年同じでなくて、取り入れていく必要がある。芸文協の考えもあると思うが。

イベントを増やすのではなく、集約して毎年同じ企画にならないようにするのが大事で、芸能関係とか町の方に目を向ける機会もあっていいかなと思う。

富樫議長 2月24日猛吹雪の日だったが、育成団体の発表会があり、見に来ている人も結構多かった。

委員 目を向けていただける人は、いつも顔ぶれが同じと感じられる。地域の一人より庄内町の一人として足を運んでいいかと思う。青少年の方も、3才の入園前の子供達は各地区公民館に任せっきりのところもあるが、サークルごとに1年に1回は顔合わせようと、どの地区も4学区まで顔合わせをして、遊びの会をしていた。各地区公民館の企画もあると思うが、青少年の中のこれだけは各地区から一緒に参加して進められる、そういうものもあっていいかと思う。

教育長 社会教育の文化系統の話だったが、スポーツ関係もある。スポ少の活動が多く、子供に暇がない。練習時間の短縮、地域の行事への参加、ボランティアへの参加、一種目でなく色々なものに取り組むように指導をしている。

富樫議長 だいぶお話も進みましたので、プログラムの見直しについてはこれまでとします。その他のあいさつ運動に入ります。

課長補佐 (あいさつ運動の取り組みについて説明)

富樫議長 最初は良かったが、さっぱり開いていない、何処に原因があつたのか。町ぐるみで取り組むことになっていたが。あいさつする日を決め、あいさつ運動に取り組む集落を指定して頑張ってもらう方法も良いのでは。反省ばかりでさっぱり進まない

委員 どこかの企業みたいに朝礼でしないと身に付かないのかしら。

教育長 社会教育がもっと積極的にやらなければいけない。人の関係を作るのが社会教育であり、役場がリードしていかなければならない。余目第一小学校があいさつ日本一を宣言している。大人を変えようとしている。

委員 小学生も中学生もよくあいさつをしてくれる。こちらからもあいさつするが高校生もきちんと返してくれる。子供達はいいが、大人がしてくれない。

教育長 あいさつをきちんとすれば、人間関係も作れるし学力も上がると言っている。

富樫議長 それでは、わたしたち社会教育委員から頑張りたいと思います。次に進み

ます。

社会教育課長 (公民館事業の交付金化への取り組み経過を説明)

富樫議長 説明いただきましたが、質問がありましたらお願いします。

社会教育課長 課題がいろいろ出てきますが、公民館と地域との融合により公民館事業が活性化するようにする事業ですので、地域の意見を反映できるように、少しずつ進めていきたい。

富樫議長 情報交換をしながら進めていただきたいと思います。他になければ資料の説明をお願いします。

課長補佐 (配付資料の説明)

富樫議長 協議は以上ですが、他にありますか。

教育長 課題は沢山ありますが、学校の耐震化を優先に進めてきた。共同調理場をはじめ社会教育施設の耐震化、文化の森、図書館等、教育委員会の事業が多い。安全・安心を第一に考えているが、教育委員会の考えだけでは進まない。大型事業の精査との関係もあり、ご理解とご協力を願いたい。

富樫議長 最後の会になりましたが、皆様からご意見をいただきありがとうございました。これで会議を終了します。

社会教育課長 閉会

16時27分 閉会